

生前に巣立ち会を利用されていて亡くなられた方のご遺族の方へ

東京大学精神医学教室では、精神科病院への長期入院を経て地域生活移行後に死亡した重度精神疾患をもつ人の後方視的調査を、東京都三鷹市・調布市にあります社会福祉法人巣立ち会と共同で実施しております。この研究は東京大学精神医学教室と社会福祉法人巣立ち会による共同研究です。

亡くなった方の記録をもとに行う調査ですので、当事者はすでに他界されていますが、ご遺族の方でこの研究に関してご質問やご意見のある方は、下記連絡先までお問い合わせください。

【対象となる方】

1992年1月1日から現在までの間に社会福祉法人巣立ち会を利用した重度精神疾患をもつ方の中で、現在までにすでに亡くなった利用者の方

【研究の意義および目的】

統合失調症をはじめとした重度精神疾患をもつ人は、一般人口に比べて平均寿命が短いことが海外では報告されています。死因は病死が多く、特に心血管系疾患による影響が大きいといわれています。その原因は、高い喫煙率、飲酒、肥満、違法薬物の使用、抗精神病薬の影響など複合的な要因が関与しているものと考えられています。

日本ではこうした重度精神疾患患者の死因に関する研究は乏しく、その実態はほとんど明らかにされていません。本研究では、長期入院後に地域移行した重度精神疾患をもつ方に支援を続けてきた福祉事業所の記録をもとに、早死の有無だけでなく、その背景を丁寧に調査することで、今後の医療保健福祉サービスに役立つ基礎資料にしたいと考えています。

【研究の方法】

この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、倫理委員会の承認のうえ実施されます。利用されていた事業所に保管されている利用者ファイル、健康診断結果（血液検査・尿検査結果）などのデータを収集して行う研究です。収集したデータは東大に送付され分析されます。特にすでに亡くなった方についての調査ですので、新たにご負担いただくことはありません。

この研究にご遺族のデータが使用されたくないという場合には、平成28年3月31日までに下記の連絡先に御連絡ください。ご連絡をいただかなかった場合、ご了承いただいたものとさせていただきます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。なお研究データを統計データとしてまとめたものについてはお問い合わせがあれば開示します。下記までご連絡ください。ご不明な点がございましたら研究責任者へお尋ねください。

平成27年11月

この研究に必要な資金は、精神・神経科学振興財団助成金から拠出されています。企業等からの資金供与はありません。この研究に関して開示すべき利益相反関係はありません。

【研究機関名】

東京大学医学部附属病院 精神神経科
研究責任者：特任講師(病院) 近藤 伸介

【問い合わせ、苦情等の連絡先】

東京大学医学部附属病院 精神神経科 近藤 伸介
住所：東京都文京区本郷7-3-1
電話：03-3815-5411（内線 33605） FAX：03-5800-6894
診療科長・教室責任者：笠井 清登